

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4191700014		
法人名	有限会社 ライフケア		
事業所名	グループホーム さんほうす		
所在地	佐賀県藤津郡太良町大字糸岐786-1		
自己評価作成日	平成25年12月4日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.espa-shiencenter.org/preflist.html
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成25年12月13日	外部評価確定日	平成26年1月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>「朝の集い」を行い、一人ひとりの「一日の過ごし方」を入居者の方々と共に話し合い、意見や要望に応えるように取り組んでいる。家族や親戚、知人等の面会を多く受け入れている。今年度は敷地内の畑の他、個別レク(居室でパズル、ラジオ)などを実施した。趣味(編み物)などを好まれる方や家事活動(食事の下拵えなど)が得意な方には、現在も継続して頂き、個々に応じた対応を心掛けている。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>有明海沿岸に位置した太良町の役場にほど近く、周辺は静かな環境に恵まれたグループホーム。開設されて満5年法人代表をはじめ管理者、スタッフの努力により周辺地域にもとけこめている。ディルーム、廊下、居室共少し広めに設計されており明るく、天井の高さもあり伸び伸びとした空間が感じられる。同じ法人に他にも、少し距離をおいた所にグループホームを有しており、お互い特徴を持ちながら入居者の処遇につとめている。敷地内には、狭いながらも畑・花壇もあり季節のお花を楽しみ、収穫された野菜等は食材に活かされている。</p>

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	介護理念・運営方針は玄関ロビーや事務所、ホールに掲示の他、クリアーケースに挟み、職員がいつでも閲覧できるよう、普段使用する机の近くに置いている。職員会議にて理念の共有と実践に努めている。	事業所としてハッピーすまいるとの介護理念を掲げている。入居者には笑顔のある日常であって欲しいとの願いがある。その為にまずスタッフが笑顔で入居者に対応出来るように、又忘れないように朝礼や、申し送り時に話し合っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入している。今年度も施設の敬老会にて、区内の保育園児によるマーチングを招待、近医のご家族が中心となられたコーラスのボランティアを招待し交流を行った。	自治会に加入し、会費も納入している。回覧板も回して頂き地域の情報も得られやすくしている。又、回覧板を利用してホームの行事等にも参加して頂くように工夫している。近所の方にも出会った時には入居者共々交流が出来ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を2ヶ月に1度開催し、当施設での認知症の方々へ困難な事例を含めた対応を話し、意見を頂くこともある。地域ケア会議等での情報交換も行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	区長、民生委員、行政職員、入居者代表、入居者家族代表などの参加を得て、開催している。入居者状況、研修等報告を行っている。委員の方々からの意見を頂くこともあり、実践に活かしている。	運営推進会議は2ヶ月に1度実施している。記録もきちんとファイルされている。会議のメンバーは、各界、各業種の方々にホームを理解して頂くように選任している。質疑応答も活発になるように運営を心掛けている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域ケア会議に出席し、地域包括支援センター等より伝達事項、各担当施設からの事例発表の他、当施設での取り組みへの質問にも回答している。	町役場、包括支援センターとは日常的に協力をお願いしている。月に1度の地域ケア会議でも研究発表をしたり、事業所の実情を伝えたりと情報の共有をしたり関係を築けるように努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての指針を玄関ロビーに掲示し、拘束をしないケアに取り組んでいる。施錠は夜間のみ実施している。	現在まで身体拘束の事実はない。玄関出入口もセンサーにより感知出来ており、スタッフの目配りも出来ている。スタッフ会議等でも身体拘束の入居者に与えるリスクも話し合い、その状況になったら家族共連携出来る体制にある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	自尊心を傷付けるような声掛けも虐待に繋がるとの認識を持ち、入居者が安心して過ごせるように心掛けている。今年度は代表者による直接指導を職員会議で実施した。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業を現在1名利用中。社会福祉協議会との連携を取りながら、活用できるように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際、重要事項説明書にて説明を行っている。入居後に不安や疑問を感じられたら、その都度、説明の機会を設けているとの機会を設けていることを伝えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員会議や申し送りノート等を活用し、職員に表せる機会を設けている。管理者の他、全職員が入居者や家族より意見、要望等に対応できるようにしている。運営推進会議での報告も行っている。	玄関出入り口には意見箱を置き、面会等で来られる家族にご意見提案を積極的に入れて頂くように話している。運営推進会議にも2年を1期として出席をお願いし、意見を述べて頂く様にしている。又、運営に反映させるように努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、職員会議を開催し、代表者や管理者は職員の意見や提案を聞く機会を設けている。また、職員会議後、日々の係りで気付いたことを話し合い、管理者に伝えている。	代表者管理者はスタッフとは朝礼、会議、懇親会等で親しく接する機会も多く、スタッフの意見・提案を聞いている。又、入居者のモニタリング表も居室担当がそれぞれ作成し、この機会にもサービスの向上に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年次有休休暇の計画付与も行っている。有休休暇の取得も個人研修等を含めて応じ、職員が働きやすい環境作りにも努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の研修計画を立て、参加している。今年度から研修報告書の書式を詳細にして、職員に伝達を行い、日常のケアに活かすよう、進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	塩田・鹿島・太良地区のグループホームで、毎月、交流会に1名参加している。全職員が交替で参加し、事例検討・レクリエーションなどについて学んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	管理者が入居前に面談を行い、本人の不安なことや要望を聞いている。入居後の様子を見て、相性の良い職員を担当とし、毎月のお便りにて、近況を伝えている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者が入居前に面談を行い、家族の不安なことや要望等を聞いている。入居後の本人の様子を面会時や電話、毎月のお便りにて伝え、家族が安心されるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者が入居前に面談を行い、その時に必要としていることを見極め、計画作成担当者と相談。介護計画に活かし、家族の協力を含めた対応ができるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	季節の野菜作り、花植え等、趣味を活かしたり、家事活動をしながら、共に生活を送る気持ちを心掛けている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月のお便りにて、入居者の様子を伝えている。本人からの希望があれば、電話や面会の依頼を行っている。家族の協力のもと、本人と家族の昔の写真をアルバムにして、回想法に繋げている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親しい友人や知人、親戚や近隣の方々の面会を積極的に取り入れている。家族協力のもと、希望に応じて自宅での外出、外泊等の支援を行っている。	入居者には地元太良町出身の方や近郊の鹿島市出身の方が殆どで、家族の面会時にも馴染みの方が訪れられる事も多い。又、家族のご協力をいただいて外出・外泊の機会を持って頂いている。他に、必要に応じて手紙や電話の支援もしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	下膳を手伝ったり、洗濯物を一緒にたたんだり、食材の下拵えをしたりなど、お互いに係り合える機会をつくっている。気の合う入居者同士が自然と寄り添い、TV視聴したり、会話を楽しんだりされている。一人で過ごされたい方には、希望に沿うように心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	医療機関のソーシャルワーカー、福祉事務所のケースワーカーなどに必要に応じて電話連絡等を行い、相談や支援に繋げている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	寄り添いながら、本人の気持ち、要望等を会話の中(ふとしたこと)から汲み取るよう、心掛けている。朝の集いを行い、「一日をどのように過ごしたいか」等、一人ひとりの考えを聴く機会を作っている。	日勤のスタッフの一人がその日のチーフを務め、チーフが中心となって毎日、朝の会を実施している。その中で一日の過ごし方、希望等を話し合い、出来るだけ沿えるように検討している。意向の表出が困難な方には担当者が寄り添って場を変えて把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	管理者が入居前の面談後、基本情報アセスメント(相談用紙)にまとめ、計画作成担当者に伝えている。必要に応じて、医療機関、居宅介護支援事業所より情報提供を頂いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	課題分析(アセスメント)概要にまとめ、現状の把握を行っている。援助記録を日勤者と夜勤者で詳しく申し送り、細かく把握できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員会議終了後、全職員にてケアカンファレンスを実施している。計画作成担当者は本人、家族に意向を聞き、介護計画を作成している。必要に応じて、主治医や訪問看護師からの助言も取り入れている。	入居時の介護計画は、作成担当者が管理者と共に入居予定者、家族との面談をもとにして暫定的に作成し、担当スタッフを決めている。見直しの段階でスタッフがそれぞれの担当入居者のモニタリング表を作成し、それを持ち寄り担当者会議、スタッフ会議に諮り、作成担当者がまとめている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画書の内容に沿って実施しながら、本人のふとした時の言葉や表情を記録し、職員間で情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	協力病院の受診同行、入居者の自宅への外出支援、買物や理美容室に付き添う(来所の場合もある)などの支援を行い、柔軟に対応できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進委員の方々の協力のもと、様々な地域交流が図れている。今年度は太良高校校外学習の受入、地域行事(浮立等)の訪問にも繋がった。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に一度、協力病院を職員付添にて受診し、かかりつけ医に希望を伝えている。かかりつけ医より頂いた所見は、援助記録に個々に記録し、訪問看護師に報告している。	入居者の殆どが地元の出身者であり、地域的にみても、地元の中央病院であるホームの協力病院を従来のかかりつけ医にしておられた方が多く、入居されても継続性は保たれている。協力病院の受診科目以外については原則、家族の受診をお願いしている。困難な時は支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携を行っている訪問看護ステーションより、訪問看護師が週1回、訪問して頂いている。専用の申し送りノートに記録し、受診の際に活用している。急な発熱等の場合、電話連絡を行い、適切な受診や看護を受けられるよう、支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力病院のソーシャルワーカーの方に、運営推進委員に就任して頂いている。できるだけ早期に退院できるように、情報交換や相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「看取りに関する指針」「重度化終末期ケア対応指針」がある。契約時に本人と家族に説明を行い、同意を得ている。入居者の状態に合わせて、主治医や本人、家族と話し合うことができるようにしている。	重度化や終末期に向けた方針は文書化しており、入居契約時に、重要事項説明書と共に入居者、家族には説明し、理解を得、共有出来ている。又、その時期に至った時には、再度家族に説明しながら協力病院、地域の関係者のチームで支援出来る体制にある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訪問看護師の指導のもと、日頃から急変時の対応について備えている。職員も関連の外部研修等にも参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の指導、協力を得ながら、定期的に通報、避難訓練を実施している。実施結果を記録し、職員、入居者が避難方法を身につけるようにしている。	火災訓練は年2回実施し、記録もきちんと残している。年1回は消防署、地域の消防団の協力を得て、通報・消火・避難訓練の総合訓練とし、時には夜間を想定しての訓練も実施している。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の尊厳と人格の尊重、プライバシーの侵害のないよう、接遇に配慮し、対応している。契約の際に、個人情報の利用目的を家族に説明し、同意書を交わしている。	接遇については、スタッフの施設外研修の機会を捉えて、又スタッフ会議に於いても頻繁に話し合っている。特に言葉かけについて誇りやプライバシーに気おつけて対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	朝の集いの他、日常生活の中で、本人が思いや希望を表したり、自己決定が出来るよう、働きかけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の意思を大事にしている。自分の居室で過ごしたい方、他の入居者と一緒に居たい方、希望に沿って支援を行い、職員の都合や業務優先にならないよう、心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの理美容室を利用できるように支援している。本人の好みを聞きながら、一緒に服を選んだり、その人らしさを考えている。自分で選ぶのが難しい方には、職員が起床時や入浴前などに準備している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	当施設での畑で、野菜収穫の際は、入居者に見て頂いたり、下拵えを職員と一緒にやっている。嗜好アンケートを個別に行い、希望に応えられるようにしている。	食事の時間は入居者にとって、最も楽しみな時間である事の大切さをスタッフ全員共有している。入居者も出来る範囲で手伝われ、スタッフも共にテーブルを囲む事が習慣になっている。スタッフのお弁当で会話が弾むこともある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量を記録し、一日の必要摂取量を確保できるようにしている。お茶以外にもコーヒー、生姜湯、牛乳を提供している。旬の野菜なども使い、栄養のバランスも考えている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの声掛けをし、自分で口腔ケアが出来ない方は、職員が付き添い、一緒に行っている。感染予防として緑茶にて、うがいを実施している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	全入居者が居室トイレを使用されている。個別の排泄チェック表を活用し、数名はトイレ誘導を行い、排泄の習慣の把握に努め、支援している。	入居者は介護度も比較的元気な方が多く、排泄はほぼ自分の居室のトイレを利用される事が多い。しかし、入居者のお話を聞いたり、スタッフが注目していたりして、排泄チェック表を作成し、入居者のパターンを把握して自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食後、必ず牛乳を提供している。牛乳を好まない方にはヨーグルトを週2回(月・木)提供している。便秘傾向の方には腹部マッサージを行ったり、主治医へ相談し、緩下剤を検討している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴曜日を決めて支援している。入浴を好まない方には、足浴や清拭を実施している。時間帯や曜日も家族の面会時など、個々のタイミングに合わせて、実施している。	入浴は入居者それぞれが少なくとも週2回の割でゆっくり実施できるようにしている。時間帯や曜日は決めていない。それでも拒否される方には清拭や足浴で対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中に希望やその時の状況に合わせて、いつでも休息が取れるように、配慮している。就寝を早く希望されたり、眠れない時は話相手になるなど、安心して眠れるよう支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	与薬準備から職員2人以上で確認を行い、誤薬の無いようにしている。薬の作用、副作用については、個別のファイルに綴じて、すぐに見れるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器濯ぎ、お盆拭き、編み物、新聞折り等、個々の得意なものを把握し、一緒に行っている。仕上がった作品は、隣市の医療機関の文化祭に出展した。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天候が良かったり、希望があれば、ドライブを出来る限り支援している。家族との外出も協力を得て実施している。天気が良い日は敷地内の畑の前で椅子を並べ、お茶を飲むなどしている。	日課として散歩の時間と決めてはいないが、天気の良い日にはスタッフに誘われつつ、三々五々連なって外気を楽しんでおられる。又、スケジュールにより全員でドライブを楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個別に現金出納帳と領収書綴りを作成し、家族に分かりやすいようにして、郵送にて収支報告を行っている。お金の支払いができる方には、手渡して買い物等ができるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の協力を得て、希望があれば職員が掛けて、入居者がいつでも話せるようにしている。安心につながるよう(声を聞くことで)に心掛けている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレが各居室にあり、プライバシーに配慮している。玄関には、季節の花を飾り、入居者と共に手入れを行っている。敷地内の畑には、入居者と共に野菜を植え、季節感を味わって頂けるような環境づくりをしている。	玄関ホール、廊下、ディルームは広々としていて、南側大きなガラス戸上部には明り取りも用意されていて明るく、ゆったりとした共用空間である。温・湿度計も備えられていて、居心地良く過ごせる工夫がされている。ホール壁面には季節の装飾も適度のなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにはソファやテーブルを設置し、一人ひとりが自由に過ごせるような空間づくりをしている。居室でパズルに取り組む方もおられる。編み物やその毛糸ほどこきなど、同じ趣味で楽しめるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力を得て、馴染深いものを飾っている。馴染深い財布を探される方もおられ、家族に持参して頂いている。行事等の写真や自ら作られたカレンダーを貼っている。定期的に職員と一緒に居室の整理を行っている。	居室も適度な広さの中に、ベッド、衣装ダンスが備えられ、馴染みの写真立て等も工夫され居心地良く過ごせるようにされている。又、家族には今でも好みの品を持って来て頂くようにお話している。壁にはお誕生お祝いの写真も貼られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の名札、共同トイレや浴室などがわかりやすくなっている。手すりが必要な方については、居室に設置している。洗面台を使用するときに椅子を置くなど、入居者の状態に応じた工夫と手すりには物を掛けず、安全な環境づくりに努めている。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目))(事業所記入)
 ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない